追加の要件

- 高可用性 ログイン プロファイル （1 ページ）
- 単一クラスタ コンフィギュレーション （4 ページ）
- XMPP 標準への準拠 （11 ページ）
- 設定変更通知およびサービス再起動通知 （12 ページ）

高可用性 ログイン プロファイル

高可用性 ログイン プロファイルに関する重要事項

- この項の高可用性 ログイン プロファイル テーブルを使用して、プレゼンス冗長グループのクライアント再ログインの上限値と下限値を設定できます。**[Cisco Unified CM IM and Presence Administration（Cisco Unified CM IM and Presence の管理）] > [System（システム）] > [Service Parameters（サービス パラメータ）]** を選択し、[Service（サービス）] メニューから **[Cisco Server Recovery Manager]** を選択して、クライアント ログインの上限値と下限値を設定します。
- 高可用性 クライアント ログイン プロファイルは、単一クラスタの展開でのみ適用されます。複数のクラスタが存在する場合、高可用性クライアントログインプロファイルには、冗長グループの上位および下位のクライアントの再ログイン値を設定することはできません。複数のクラスタ展開で高可用性クライアントログインプロファイルを検出するには、さらにテストを実行する必要があります。
- Cisco XCP ルータ サービスのデバッグ ロギングが有効になっている場合は、CPU の使用率が増加し、IM and Presence Service に関して現在サポートされているログ レベルが低下することを予期する必要があります。
- ここに示すテーブルに基づいてプレゼンス冗長グループのクライアント再ログインの上限と下限を設定することで、展開のパフォーマンスの問題および高 CPU スパイクを回避できます。

- 各 IM and Presence Service ノードのメモリ サイズおよび各高可用性展開タイプ（アクティブ/アクティブまたはアクティブ/スタンバイ）用に高可用性ログインプロファイルを提供します。
- 高可用性 ログイン プロファイル テーブルは、次の入力に基づいて計算されます。
  - クライアント再ログインの下限は、Server Recovery Manager のサービス パラメータ「Critical Service Down Delay（重要なサービス停止遅延）」に基づいており、デフォルトは 90 秒です。Critical Service Down Delay（重要なサービス停止遅延）が変更されると、下限も必ず変わります。
  - アクティブ/スタンバイ展開のプレゼンス冗長グループ内のユーザ合計数、またはアクティブ/アクティブ展開のユーザが最も多いノード。
- プレゼンス冗長グループ内の両方のノードで、クライアント再ログインの上限値と下限値を設定する必要があります。プレゼンス冗長グループの両方のノードでこれらの値をすべて手動で設定する必要があります。
- クライアント再ログインの上限値と下限値は、プレゼンス冗長グループの各ノードで同じである必要があります。
- ユーザを**再平衡化**する場合は、高可用性 ログイン プロファイル テーブルに基づくクライアント再ログインの上限値と下限値を再設定する必要があります。

高可用性 ログイン プロファイル テーブルの使用

高可用性 ログイン プロファイル テーブルを使用して、次の値を取得します。

- [Client Re-Login Lower Limit（クライアント再ログインの下限）] サービス パラメータ値
- [Client Re-Login Upper Limit（クライアント再ログインの上限）] サービス パラメータ値

手順

ステップ 1 および仮想ハードウェア設定および高可用性展開タイプに基づいてプロファイルテーブルを選択します。

ステップ 2 プロファイル テーブルで、展開内のユーザ数を選択します（最も近い値に切り上げ）。アクティブ/スタンバイ展開を使用している場合、ユーザが最も多いノードを使用します。

ステップ 3 プレゼンス冗長グループの [Number of Users（ユーザ数）] の値に基づいて、プロファイルテーブル内の対応する再試行の下限値と上限値を取得します。

ステップ 4 **[Cisco Unified CM IM and Presence Administration（Cisco Unified CM IM and Presence の管理）] > [System（システム）] > [Service Parameters（サービス パラメータ）]** を選択し、[Service（サービス）] メニューから [Cisco Server Recovery Manager] を選択して、IM and Presence Service の再試行の下限値と上限値を設定します。

ステップ 5 **[Cisco Unified CM IM and Presence Administration（Cisco Unified CM IM and Presence の管理）] > [System（システム）] > [Service Parameters（サービス パラメータ）]** を選択し、[Service

（サービス）] メニューから [Cisco Server Recovery Manager] を選択して [Critical Service Down Delay（重要なサービス停止）] の値を確認します。デフォルト値は 90 秒です。再試行下限値はこの値に設定してください。

高可用性 ログイン設定の例

例 1：**ユーザ数 15,000 のフル UC プロファイル - アクティブ/アクティブ展開**

プレゼンス冗長グループ内のユーザが 3,000 人で、あるノードに 2,000 人、2 台目のノードに 1,000 人のユーザがいます。非平衡型のアクティブ/アクティブ展開の場合、シスコはユーザが最も多いノード（この場合は、2,000 人のユーザが割り当てられているノード）を使用することを推奨します。ユーザ数 15,000 のフル米国（4 vCPU 8 GB）アクティブ/アクティブ プロファイルを使用して、次の再試行の下限値と上限値を取得します。

見込まれるアクティブなユーザ数	再試行下限値	再試行上限値
2000	120	253

（注） 再試行上限値は、フェールオーバー発生後にすべてのクライアントがバックアップ ノードにログインするまでのおおよその時間（秒）です。

（注） 120 の下限値は、**[Critical Service Down Delay（重要なサービス停止遅延）]** サービス パラメータが 120 に設定されていることを前提としています。

例 2：**ユーザ数 5000 のフル UC プロファイル - アクティブ/アクティブ展開**

プレゼンス冗長グループ内の各ノードに 4,700 人のユーザがいます。シスコは、最も近い値に切り上げ、ユーザ数 5,000 のフル米国（4 vCPU 8 GB）アクティブ/アクティブ プロファイルを使用して、ユーザ数 5,000 に基づいて、再試行の下限値と上限値を取得することを推奨します。

見込まれるアクティブなユーザ数	再試行下限値	再試行上限値
5000	120	953

単一クラスタ コンフィギュレーション

500 ユーザ フル UC（1vCPU 700MHz 2GB）のアクティブ/アクティブ プロファイル

表 *1:* 標準展開（*500* ユーザ フル *UC* のアクティブ/アクティブ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	187
250	120	287

500 ユーザ フル UC（1vCPU 700MHz 2GB）のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 *2:* 標準展開（*500* ユーザ フル *UC* のアクティブ/スタンバイ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	187
250	120	287
500	120	453

1000 ユーザ フル UC（1vCPU 1500MHz 2GB）のアクティブ/アクティブ プロファイル

表 *3:* 標準展開（*1000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/アクティブ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
250	120	203
500	120	287

1000 ユーザ フル UC（1vCPU 1500MHz 2GB）のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 *4 :* 標準展開（*1000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/スタンバイ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
250	120	203
500	120	287
750	120	370
1000	120	453

2000 ユーザ フル UC（1vCPU 1500Mhz 4GB）のアクティブ/アクティブ プロファイル

表 *5 :* 標準展開（*2000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/アクティブ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
500	120	287
1000	120	453

2000 ユーザ フル UC（1vCPU 1500Mhz 4GB）のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 *6 :* 標準展開（*2000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/スタンバイ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	153
250	120	203

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
500	120	287
750	120	370
1000	120	453
1250	120	537
1500	120	620
1750	120	703
2000	120	787

5000 ユーザ フル UC（4 GB 2vCPU）のアクティブ/アクティブ プロファイル

表 *7:* 標準展開（*5000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/アクティブ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	137
500	120	203
[1000]	120	287
1500	120	370
2000	120	453
2500	120	537

5000 ユーザ フル UC（4 GB 2vCPU）のアクティブ/スタンバイ プロファイル

表 *8:* 標準展開（*5000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/スタンバイ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	137
500	120	203

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
[1000]	120	287
1500	120	370
2000	120	453
2500	120	537
3000	120	620
3500	120	703
4000	120	787
4500	120	870
[5000]	120	953

15000 ユーザ フル UC（4 vCPU 8GB）のアクティブ/アクティブ プロファイル

注目　15000 ユーザ システムで最大のクライアント ログイン スループットを実現するために、シスコでは、少なくとも 2.5GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 *9* : 標準展開（*15000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/アクティブ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	127
500	120	153
[1000]	120	187
1500	120	220
2000	120	253
2500	120	287
3000	120	320
3500	120	353
4000	120	387
4500	120	420
5000	120	453

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
6000	120	520
7000	120	587
7500	120	620

15000 ユーザ フル UC（4 vCPU 8GB）のアクティブ/スタンバイ プロファイル

注目　15000 ユーザ システムで最大のクライアント ログイン スループットを実現するために、シスコでは、少なくとも 2.5GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 *10* : 標準展開（*15000* ユーザ フル *UC* のアクティブ/スタンバイ）のユーザ ログイン再試行制限

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
フル UC		
100	120	127
500	120	153
[1000]	120	187
1500	120	220
2000	120	253
2500	120	287
3000	120	320
3500	120	353
4000	120	387
4500	120	420
5000	120	453
6000	120	520
7000	120	587
8000	120	653
9000	120	720
10000	120	787
11000	120	853

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
12000	120	920
13000	120	987
14000	120	1053
15000	120	1120

25000ユーザフルUC（6vCPU16GB）のアクティブ/アクティブプロファイル

注目 25000 ユーザ システムで最大のクライアント ログイン スループットを実現するために、シスコでは、少なくとも 2.8GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 *11 :* アクティブ/アクティブ プロファイルのログイン率：*9* ユーザが *45%* の *CPU* を使用

見込まれるアクティブなユーザ数	再試行下限値	再試行上限値
100	120	131
500	120	176
[1000]	120	231
1500	120	287
2000	120	342
2500	120	398
3000	120	453
3500	120	509
4000	120	564
4500	120	620
[5000]	120	676
6000	120	787
7000	120	898
7500	120	953
8000	120	1009

見込まれるアクティブなユーザ数	再試行下限値	再試行上限値
9000	120	1120
10000	120	1231
11000	120	1342
12000	120	1453
12500	120	1509

25000ユーザ フルUC（6vCPU16GB）のアクティブ/スタンバイ プロファイル

注目 25000 ユーザ システムで最大のクライアント ログイン スループットを実現するために、シスコでは、少なくとも 2.8GHz の CPU クロック速度を推奨しています。

表 *12 :* アクティブ/スタンバイ プロファイルのログイン率：*16* ユーザが *80%* の *CPU* を使用

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
100	120	126
500	120	151
[1000]	120	183
1500	120	214
2000	120	245
2500	120	276
3000	120	308
3500	120	339
4000	120	370
4500	120	401
[5000]	120	433
6000	120	495
7000	120	558
8000	120	620

アクティブ ユーザの予想数	再試行下限値	再試行上限値
9000	120	683
10000	120	745
11000	120	808
12000	120	870
13000	120	933
14000	120	995
15000	120	1058
16000	120	1120
17000	120	1183
18000	120	1245
19000	120	1308
20000	120	1370
21000	120	1433
22000	120	1495
23000	120	1558
24000	120	1620
25000	120	1683

XMPP 標準への準拠

IM and Presence Service は次の XMPP 標準に準拠しています。

- RFC 3920 Extensible Messaging and Presence Protocol (XMPP): Core RFC 3921 Extensible Messaging and Presence Protocol (XMPP): Instant Messaging and Presence
  - XEP-0004 Data Forms
  - XEP-0012 Last Activity
  - XEP-0013 Flexible Offline Message Retrieval
  - XEP-0016 Privacy Lists
  - XEP-0030 Service Discovery
  - XEP-0045 Multi-User Chat

- XEP-0054 Vcard-temp
- XEP-0055 Jabber Search
- XEP-0060 Publish-Subscribe
- XEP-0065 SOCKS5 Bystreams
- XEP-0066 Out of Band Data Archive OOB requests
- XEP-0068 Field Standardization for Data Forms
- XEP-0071 XHTML-IM
- XEP-0082 XMPP Date and Time Profiles
- XEP-0092 Software Version
- XEP-0106 JID Escaping
- XEP-0114 Jabber Component Protocol
- XEP-0115 Entity Capabilities
- XEP-0124 Bidirectional Streams over Synchronous HTTP (BOSH)
- XEP-0126 Invisibility
- XEP-0128 Service Discovery Extensions
- XEP-0160 Best Practices for Handling Offline Messages
- XEP-0163 Personal Eventing Via PubSub
- XEP-0170 Recommended Order of Stream Feature Negotiation
- XEP-0178 Best Practices for Use of SASL EXTERNAL
- XEP-0220 Server Dialback
- XEP-0273 SIFT (Stanza Interception and Filtering Technology)

設定変更通知およびサービス再起動通知

サービスを再起動する必要がある場合は、[アクティブな通知（Active Notifications）] ポップアップが表示されます。Cisco Unified CM IM and Presence Administration GUI ヘッダーの右上に、[アクティブな通知の概要（Active Notifications Summary）] があります。

さらに、Cisco Unified CM IM and Presence の管理インターフェイスから **[システム（System）]** > **[通知（Notifications）]** を選択することで、アクティブな通知リストにアクセスできます。

再起動が必要な設定の変更

多くの IM and Presence 設定の変更および更新では、Cisco XCP ルータ、Cisco SIP プロキシ、または Cisco Presence Engine を再起動する必要があります。

次の表に、これらのサービスの再起動が必要な設定の変更を示します。このリストには設定の変更が含まれていますが、インストールやアップグレードなどのプラットフォームの変更は含まれていません。

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
アプリケーション リスナーの設定 （[システム（System）] > [アプリケーションリスナー（Application Listeners）]） アプリケーション リスナーの編集	Cisco SIP Proxy
コンプライアンス プロファイルの設定 （[メッセージング（Messaging）]>[コンプライアンス（Compliance）] > [コンプライアンス設定（Compliance Settings）]） （[メッセージング（Messaging）]>[コンプライアンス（Compliance）] > [コンプライアンスプロファイル（Compliance Profiles）]） サードパーティのコンプライアンスサーバに割り当てられているイベントの設定を編集する場合	Cisco XCP Router
グループ チャットのシステム管理者 （[メッセージング（Messaging）] > [グループチャットのシステム管理者（Group Chat System Administrators）]） この設定を有効または無効にする場合	Cisco XCP Router
外部ファイル サーバの設定 （[メッセージング（Messaging）]> [外部サーバの設定（External Server Setup）] > [外部ファイルサーバ（External File Servers）]） [ホスト/IPアドレス設定（Host/IP Address Setting）] を編集する場合 [外部ファイルサーバパブリックキー（External File Server Public Key）] を再生成する場合	Cisco XCP Router
グループ チャットと持続チャットの設定 （[メッセージング（Messaging）] > [グループチャットと持続チャット（Group Chat and Persistent Chat）]） 起動時にチャット ノードが外部 DB に到達できない場合、Cisco XCP Text Conference Mgr サービスは実行されていません。	Cisco XCP Router
グループ チャット サーバ エイリアス マッピング （[メッセージング（Messaging）] > [グループチャットサーバエイリアスマッピング（Group Chat Server Alias Mapping）]） チャット エイリアスの追加	Cisco XCP Router

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
ACL 設定 （[システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [着信ACL（Incoming ACL）]） （[システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [発信ACL（Outgoing ACL）]） 着信または発信 ACL 設定の編集	Cisco SIP Proxy
コンプライアンス設定 [メッセージアーカイバ（Message Archiver）] : 設定の編集	Cisco XCP Router
LDAP サーバ（LDAP Server） （[アプリケーション（Application）] > [サードパーティクライアント（Third-Party Clients）] > [サードパーティLDAP設定（Third-party LDAP Settings）]） [LDAP検索（LDAP Search）] : LDAP 検索の編集 [LDAPからvCardを作成（Build vCards from LDAP）] の編集 vCard FN に使用するための LDAP 属性の編集	Cisco XCP Router
メッセージ設定の構成 （[メッセージング（Messaging）] > [設定（Settings）]） [インスタントメッセージの有効化（Enable instant message）] の編集 オフライン中の相手へのインスタントメッセージの送信を無効にする	Cisco XCP Router
Microsoft RCC 設定 （[アプリケーション（Application）] > [Microsoft RCC] > [設定（Settings）]） このページのいずれかの設定の編集	Cisco SIP Proxy
プレゼンス ゲートウェイ（Presence Gateway） （[プレゼンス（Presence）] > [ゲートウェイ（Gateways）]） プレゼンス ゲートウェイの追加、編集、削除 MS Exchange 証明書をアップロードした後	Cisco Presence Engine

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
プレゼンス設定の構成 （[プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] > [標準設定（Standard Configuration）]） [プレゼンスステータスの共有を有効にする（Enable Availability Sharing）] 設定の編集 確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする 連絡先リストの最大サイズ（ユーザごと）（Maximum Contact List Size (per user)） [ウォッチャの最大数（Maximum Watchers）]	Cisco Presence Engine Cisco XCP Router
プレゼンス設定の構成 （[プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] > [標準設定（Standard Configuration）]） [イントラドメインフェデレーションで電子メールアドレスのユーザを有効にする（Enable user of Email address for Interdomain Federation）] フィールドの編集	Cisco XCP Router
パーティション イントラドメイン フェデレーションの設定 [プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] > [標準設定（Standard Configuration）]（チェックボックス） [プレゼンス（Presence）]>[イントラドメインフェデレーションのセットアップ（Intradomain Federation Setup）]（ウィザード） チェックボックスまたはウィザードを使用した [LCS/OCS/Lync とのパーティションイントラドメインフェデレーションを有効にする（Enable Partitioned Intradomain Federation with LCS/OCS/Lync）] の設定 パーティション イントラドメイン ルーティング モード：[標準設定（Standard Configuration）] ウィンドウまたはウィザードを使用した設定	これらの設定を編集すると、Cisco SIP プロキシが自動的に再起動します さらに、XCP ルータを再起動する必要があります
プロキシ設定 （[プレゼンス（Presence）] > [ルーティング（Routing）] > [設定（Settings）]） プロキシ設定へのいずれかの編集	Cisco SIP Proxy

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
セキュリティ設定 （[システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [設定（Settings）]） SIP イントラクラスタ プロキシ間トランスポート プロトコルなどのいずれかの SIP セキュリティ設定の編集 いずれかのXMPP セキュリティ設定の編集	Cisco SIP プロキシ（SIP セキュリティの編集の場合） Cisco XCP ルータ（XMPPセキュリティの編集の場合）
SIP フェデレーテッド ドメイン （[プレゼンス（Presence）] > [ドメイン間フェデレーション（Interdomain Federation）] > [SIPフェデレーション（SIP Federation）]） この設定の追加、編集、削除	Cisco XCP Router
サードパーティ製コンプライアンス サービス （[アプリケーション（Application）] > [サードパーティクライアント（Third-Party Clients）] > [サードパーティLDAPサーバ（Third-Party LDAP Servers）]） [ホスト名/IPアドレス（Hostname/IP Address）]、[ポート（Port）]、[パスワード/パスワードの確認（Password/Confirm Password）] フィールドの編集	Cisco XCP Router
TLS ピア サブジェクトの設定 （[システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [TLSピアサブジェクト（TLS Peer Subjects）]） このページでのいずれかの編集	Cisco SIP Proxy
TLS コンテキスト（TLS Context） （[システム（System）] > [セキュリティ（Security）] > [TLSコンテキスト設定（TLS Context Configuration）]） このページでのいずれかの編集	関連付けられているチャットサーバの再起動が必要な場合があります。
XMPP フェデレーション （[プレゼンス（Presence）] > [ドメイン間フェデレーション（Interdomain Federation）] > [XMPPフェデレーション（XMPP Federation）] > [設定（Settings）]） （[プレゼンス（Presence）] > [ドメイン間フェデレーション（Interdomain Federation）] > [XMPPフェデレーション（XMPP Federation）] > [ポリシー（Policy）]） XMPP フェデレーションへのいずれかの編集	Cisco XCP Router

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
クラスタ間ピアリング （プレゼンス クラスタ間設定） クラスタ間ピア設定の編集	場合によっては、Cisco XCP ルータの再起動を求められる場合があります（右上のウィンドウに通知が表示されます）。
イーサネット設定 （[Cisco Unified IM and PresenceのOSの管理（Cisco Unified IM and Presence OS Administration）] から、[設定（Settings）] > [IP] > [イーサネット/イーサネットIPv6（Ethernet/Ethernet IPv6）]） いずれかのイーサネット設定の編集	システムが即時再起動されます
IPv6 設定（IPv6 Configuration） （[システム（System）] > [エンタープライズパラメータ（Enterprise Parameters）]） [IPv6を有効化] エンタープライズパラメータの有効化の編集	Cisco XCP Router Cisco SIP Proxy Cisco Presence Engine
トラブルシューティング サブスクライバがオフラインの間に IMとプレゼンスパブリッシャが変更された場合 サブスクライバからの [設定（Settings）] > [IP] > [パブリッシャ（Publisher）] 設定の編集	サブスクライバノードの再起動
IM and Presence をアップグレードすると、以前のバージョンに切り替える必要があります	システムを再起動する
cup 証明書の再生成	Cisco SIP Proxy Cisco Presence Engine
cup-xmpp の再生成	Cisco XCP Router
cup-xmpp-s2s 証明書の再生成	Cisco XCP Router
新しい証明書のアップロード	その証明書に関連するサービスを再起動します。 CUP信頼証明書の場合は、Cisco SIP プロキシを再起動します。

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
リモート監査ログの転送プロトコル utils remotesyslog set protocol * CLI コマンドのいずれかを実行した場合	ノードの再起動
次のアラートのいずれかを受け取った場合 • PEIDSQueryError • PEIDStoIMDBDatabaseSyncError • PEIDSSubscribeError • PEWebDAVInitializationFailure	Cisco Presence Engine を再起動することを推奨します。
次のアラートのいずれかを受け取った場合 • • XCPConfigMgrJabberRestartRequired • XCPConfigMgrR2RPasswordEncryptionFailed • XCPConfigMgrR2RRequestTimedOut • XCPConfigMgrHostNameResolutionFailed	Cisco XCP ルータを再起動することを推奨します。
PWSSCBInitFailed	Cisco SIP プロキシを再起動することを推奨します。
いずれかの Exchange サービス パラメータの編集 • Microsoft Exchange 通知ポート（Microsoft Exchange Notification Port） • カレンダーの展開（Calendar Spread） • Exchange タイムアウト（秒）（Exchange Timeout (seconds)） • Exchange キュー（Exchange Queue） • Exchange スレッド（Exchange Threads） • EWS ステータス頻度（EWS Status Frequency）	Cisco Presence Engine
Exchange 証明書のアップロード	Cisco SIP Proxy Cisco Presence Engine
ロケールのインストール	IM and Presence Service の再起動
新しい MSSQL 外部データベースの作成	Cisco XCP Router

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
外部データベース設定の編集	Cisco XCP Router
外部データベースのマージ	Cisco XCP Router
TLS ピア サブジェクトの設定	Cisco SIP Proxy
ピア認証 TLS コンテキストの設定	Cisco SIP Proxy
次の Cisco SIP プロキシ サービス パラメータの編集 • CUCMドメイン（CUCM Domain） • サーバ名（補足）（Server Name (supplemental)） • HTTP ポート（HTTP Port） • ステートフルサーバ（トランザクション ステートフル）（Stateful Server (transaction Stateful)） • 持続的TCP接続数（Persist TCP Connections） • 共有メモリサイズ（バイト）（Shared memory size (bytes)） • フェデレーションルーティングIM/P FQDN（Federation Routing IM/P FQDN） • MicrosoftフェデレーションUser-Agentヘッダー（Microsoft Federation User-Agent Headers）（コンマ区切り）	Cisco SIP Proxy
[ルーティング通信タイプ（Routing Communication Type）] サービス パラメータの編集	Cisco XCP Router
IM アドレス スキームの編集	Cisco XCP Router
デフォルト ドメインの割り当て	Cisco XCP Router
クラスタからのノードの削除	Cisco XCP Router
Cisco XCP ルータに影響するパラメータを編集する場合は、Cisco XCP ルータを再起動する必要があります	Cisco XCP Router
[ルーティング通信タイプ（Routing Communication Type）] サービス パラメータ	Cisco XCP Router

再起動を必要とする設定	再起動するサービス
次のいずれかの [Cisco XCP File Transfer Manager] サービス パラメータの編集： • **外部ファイルサーバの使用可能領域の下限しきい値（External File Server Available Space Lower Threshold）** • **外部ファイルサーバの使用可能領域の上限しきい値（External File Server Available Space Upper Threshold）**	Cisco XCP Router
[複数のデバイスメッセージングの有効化（Enable Mulitple Device Messaging）] サービス パラメータの編集	Cisco XCP Router
[ユーザあたりの最大ログオンセッション数（Maximum number of logon sessions per user）] サービス パラメータの編集	Cisco XCP Router
外部データベース上の `install_dir /data/pg_hba.conf` または `install_dir /data/postgresql.conf` 設定ファイルの更新	Cisco XCP Router
移行ユーティリティ： • [プレゼンスの設定（Presence Settings）] ウィンドウでの [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンスステータスを表示できるようにする（Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval）] 設定の編集。 • [プレゼンスの設定（Presence Settings）] 設定ウィンドウでの [連絡先リストの最大サイズ（ユーザごと）（Maximum Contact Lists Size (per user)）] および [ウォッチャの最大数(ユーザごと)（Maximum Watchers (per user)）] 設定の編集。	Cisco XCP Router
クラスタからのノードの削除	Cisco XCP Router